

再び、コロナ感染者が急激に増える中、7月9日に始まった第104回の選手権も東京都高野連の大会運営者や審判団の尽力によって、いよいよ佳境に入ってきました。私たち羽村高校は3年生不在の1, 2年生11名で臨みましたが、力不足で錦城高校に10対1(7回コールド)という結果に終わりました。それでも、敗戦のあと、一年後の大会を見据えて、新チームが歩み始めています。選手を叱咤激励し、自分を鼓舞し、新しいドラマを創るのが私たちの運命^{さだめ}です。

さて、羽村高校野球部の現状ですが、地元の中学校野球部の先生方のご理解とご協力のおかげで、7名の1年生が入部してくれました。多摩地区のほとんどの学校が、部員不足に困憊している中、心から感謝してます。私立高校の授業料免除やコロナ禍における広域通信制の人気の高まりが、都立高校の定員割れに拍車をかけています。その中であって、7名の野球部員は我が校の宝物であります。ぜひ、今年度も羽村高校野球部を一つの選択肢として、紹介願えたら幸いです。

7月29日(金)14:00~15:00

7月30日(土)10:00~11:00

は、学校見学会を予定しています。全体会終了後、部活体験も行います。希望者がいましたら、この封書を渡していただいて、羽村高校HPの電子申請より申し込むようお願い下さい。直前のお知らせになって申し訳ありません。

「電子申請が終了しているようでしたら、090-8236-7196(西田携帯)まで、連絡して下さい。部活体験のみでも大丈夫です。」

「また、部活体験・見学は普段の日、いつでも行いますので、上の携帯までご相談下さい。」

とお伝え下さい。よろしく申し上げます。

【新チームについて】



- 【投手】根岸 正裕 1年（青梅市立霞台中学校）青梅リトルシニア
1年生ながら球速130kmを超えるストレートを投げる。制球力は抜群。
体力とスタミナがつけば、さらに伸びる。打撃や走塁のセンスも高い。
- 【捕手】高野 遥也 1年（八王子市立ひよどり山中学校）八王子WJHBC
夏の大会は肩が本調子でなかった。現在は徐々に回復し、シュアな打撃
にも期待している。
- 【1塁手】小川 雄也 2年（羽村第二中学校）羽村第二中学校野球部
送球を捕球するのがうまい。体に力があり、ミートすれば、学校の左翼
100mのフェンスを越える。
- 【2塁手】濱名 輝 1年（羽村第一中学校）羽村第一中学校野球部
夏の大会はチーム事情で、慣れないポジションを守ってくれた。高校入学
後打撃は好調で、夏の大会でツーアウト3塁から三遊間にヒットを打ち、
唯一の得点を挙げた。

【3 塁手】原口 楓都 2年 (武蔵村山第三中学校) クローズ

ココというときに頼れる投手。満塁のピンチを何度も救ってくれた。球速以上に投げる独特の間を持っている。制球力がある。また、三塁手としてもセンスがある。

【遊撃手】渡部 要 2年 (瑞穂町立瑞穂中学校) 福生シニア

未だ、制球力に不安があるが、いちばん威力のあるボールを投げる。また追い込んだときにはナックルボールを投げる。能力は高いので、どれくらい本気で、野球に取り組めるかが課題である。

【左翼手】嶋田 龍 1年 (武蔵村山第一中学校) 狭山西部ボーイズ

チームのひょうきん者。夏の大会では1番として、チームを引っ張り、初回いきなりレフトオーバーの2塁打を放った。ボールを取る感覚が1年生ながら素晴らしい。

【中堅手】瀬登 レイ 2年 (青梅市立新町中学校) 福生シニア

【主 将】夏の大会前に、利き腕の指を骨折してしまった。守備のセンス、走塁のセンスが抜群で、力もついてきて、直前の練習試合では本塁打を連発していた。彼が万全であれば、夏の大会もかなり違う結果になったに違いない。

【右翼手】高橋 青空 1年 (武蔵村山第一中学校) 武蔵村山リトルシニア

横手投げの投手でもある。未だ未完成であるが、「投げる」「打つ」「走る」の全ての要素で、能力が高い。時間をかけてゆっくり育てる。

【外野手】中橋 日向 1年 (立川市立第五中学校) 立川第五中学校野球部

守備、打撃とも未だ発展途上だが、力強い振りは将来、チームの勝利に貢献してくれると信じている。努力と練習あるのみ。

【内野手】土居 龍青 1年 (青梅市立第一中学校) 青梅リトルシニア

夏の大会は持ち前のセンスで、チームを手伝ってくれた。

【マネージャー】皆川 愛佳 1年 (青梅市立新町中学校)

1年生ながら、チームのお母さんの存在である。どんなふうにもチームの勝利に貢献していくか、楽しみだ。

【マネージャー】西田 美桜 1年 (八王子市立第五中学校)

体調を崩してしまい、夏の大会ではチームに貢献することが出来なかった。

これからの期待している。

【昨年度12月18日学校説明会后、部活動体験の様子】

寒い中、現在の一年生が部活体験に参加してくれました。実際に、見て、話して、触れあいながら、3年間過ごす場所を決めて下さい。信頼関係や絆が、実際には一番大切な決め手になります。課題の多い生徒達なので、問題も発生します。その関わりの中で、人は成長します。ほんの数パーセントの野球エリート達が、強豪校の熾烈な競争の中で、レギュラーを目指します。しかし、残りのほとんどの学校に、本来の高校野球はあり続けるのです。



濱名、中橋



2年生達



嶋 田



一年生ながら主戦の根岸



濱名(3年生に兄がいた)

